

早田直弘

【中小企業診断士を受験した動機】

会社ではニッチな仕事をしており、一般的なビジネスに関する知識の不足を感じていました。勤務している会社は研修等の教育制度が充実しておらず、自分で勉強するにはどうしたらいいかと模索していたところ、幅広い分野を学べる中小企業診断士なる資格があると知り興味を持ちました。

【受験歴】

2016年 1次試験 合格

2次試験 不合格 C A B A (大手予備校)

2017年 1次試験 受験せず

2次試験 不合格 A D B C (MMC・マスターコースV)

2018年 1次試験 合格

2次試験 合格 A A B A (MMC・直前対策)

【MMCにたどり着くまで】

初年度は大手予備校で勉強していました。1次試験の講座は充実しており、予備校のカリキュラムについていくことで合格できました。

しかし、2次試験の講座は「講師の指導が曖昧」「演習問題の構成が本試験と違いすぎる」など、満足できるものではなく、8月下旬にさしかかる頃には「このままでは合格出来ない」と思うようになりました。さりとて、他の予備校もどこが良いか分からず、市販の書籍を頼りにほぼ独学することとなり、なんとか勝負にはなったものの不合格となってしまいました。

2年目の勉強に突入するにあたり、先輩合格者の答案を数多く見て、「文章が分かりやすい」という共通点に気がつきました。私自身も「難しい分析やハッとするような気づきが合否を分けるわけではない」との認識が前々からあり、それらを念頭に置いて各予備校の説明会に足を運んだ結果、MMCでの学習が最も合格に近いと確信しました。

また、本試験ではA評価をとれたものの、事例IVに弱点を抱えていると自覚していましたので、事例IVの指導が手厚いMMCは、その面でも自分に最適であると思いました。

【MMCでの気づき】

第一には、「自分の答案はまだまだ読みづらかった」ということです。私は文章読解力、文章作成力等の国語力には自信がりましたが、MMCで学んでみると、それらを2次試験に対応する形で発揮する訓練が足りていないことに気がつきました。やはり、2次試験に対応した「型」がない中では、いくら得意であってもしょせんは場当たりの書いているに過ぎず、採点者に自分の意図が完全に伝わっているとは言いがたい解答がありました。

次に、「過去問題の分析の重要性」も痛感しました。MMCでは「本試験では角度をかえつつも同じ事が繰り返し問われている」という教えがあります。MMCの本試験問題のエッセンスが詰まった演習問題を解いた後で過去問題を分析してみると、確かにそうであることが実感できました。

更に、「事例Ⅳの得点力≠純粋な計算力」ということも大きな気づきでした。これは決して「計算力など必要ない」ということではありません。MMCでは、質・量ともに充実した事例Ⅳ演習や問題集があります。しかし、それらで訓練をした受験生であっても、ミスしない仕組み作りや戦略的な得点の積み上げ方を知らなければ、年に一度の本試験で安定した成績を残すことは出来ない、という認識を得ることが出来ました。

【MMCでの学習】

私が重点的に取り組んでいたのは、演習後の「再答案」です。再答案とは、80点（MMCにおける満点）がとれるよう、再度自分で答案を作り直して提出し、添削を受けられるサービスです。単純に解答を書き写す、所謂「写経」を行うのではなく、「自分の能力の範囲内で80分以内を書けそうな最高の答案」を作成する感じでしょうか。初期の頃は1事例につき3時間以上かかっていましたが、その中でMMCのキーワードや解答の金型等が自分の血肉となり、無意識に出るようになりました。

また、G. W. 後は特別講座でいただいた事例Ⅳの問題集を1日2～3問程度解いていました。こちらは3年目の合格まで使い続け、最後にはすり切れて破れてしまいました。

【本試験】

私はどうしても極度に緊張してしまう性質で、1回目は事例Ⅰで予件文の内容が全く頭にはいらず、2回目は事例Ⅱで制限時間を勘違いして大パニックになり、ともに不合格となってしまいました。特に2回目は、MMCで十分に事前準備したつもりであったにも関わら

ずそのような結果となり、一時は「もう自分は受からないんじゃないか」と途方に暮れてしまったこともあります。

転機は3年目の3月に受けたMMCの第1回模試でした。その頃はすっかりやる気を失っており、前年の2次試験終了後からほとんど勉強していませんでしたが、友人が受験すると言っていたので模試後に飲むために受験しました。正直、「ずっと勉強していなかったら、どれくらい点数が落ちるのか」という事を試すくらいのつもりでした。しかし、蓋を開けてみると、なんと全体で1位の成績でした。そのことで、「努力して身に付けたことは簡単には失われない」という自信と、「どれだけ試験を突き放して捉えられるかが自分にとっての課題である」との気づきを得ました。

3回目の2次試験は、あえて「週末のイベント」くらいの認識で臨み、「落ちたってまた来年受けるだけだから、別にいいや」と、試験にのめり込まない気持ちで受けました。それでも結局は緊張し（笑）、事例Ⅱで解答欄を間違えるというミスもしましたが（修正は間に合いました）、なんとか合格することが出来ました。

【最後に】

口述セミナーで中居先生、徳川先生に「よかったね！！」と満面の笑みで声をかけて頂きました。お世話になった方々に喜んで頂けたことで、合格の喜びもひとしおとなりました。また、同じく受験生であった妻とは試験の苦楽をともにする中で、有形・無形の励ましを受けました。妻無しでは私の合格はなかったでしょう。

3年かかりましたが、勉強は楽しかったですし、人の出会いにも恵まれました。幸せな受験生活だったのではないのでしょうか。ありがとうございました。